

2015年9月24日

各位

会社名 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
(コード番号8267 東証第一部)
問合せ先 執行役経営企画担当 山梨 広一
(電話番号 043-212-6042)

当社子会社（マックスバリュ中部株式会社）の業績予想の修正及び
特別損失計上について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社であるマックスバリュ中部株式会社（名証第2部：コード8171）が、特別損失を計上するとともに2015年4月9日に公表した2016年2月期第2四半期累計期間の業績予想を添付資料のとおり修正することとなりましたのでお知らせします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上



2015年9月24日

各位

会社名 マックスバリュ中部株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
 (コード番号: 8171 名証第2部)
 問合せ先 取締役兼常務執行役員管理・総合企画本部長 望月 俊二
 (TEL 052-857-0719)

業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2015年4月9日に公表しました2016年2月期第2四半期累計期間の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、同期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(金額の単位: 百万円)

2016年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2015年3月1日~2015年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	83,300	350	370	△140	△4円42銭
今回修正予想(B)	86,690	1,130	1,130	120	3円79銭
増減額(B-A)	3,390	780	760	260	
増減率(%)	4.1	222.9	205.4	-	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2015年2月期第2四半期)	81,675	△526	△497	△517	△16円34銭

2016年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2015年3月1日~2015年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	82,400	600	620	10	0円32銭
今回修正予想(B)	85,610	1,380	1,380	350	11円05銭
増減額(B-A)	3,210	780	760	340	
増減率(%)	3.9	130.0	122.6	-	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2015年2月期第2四半期)	81,019	△243	△225	△376	△11円89銭

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間の個別業績は、2015年3月にマックスバリュ水海道店(岐阜県岐阜市)、同6月にマックスバリュ小牧駅西店(愛知県小牧市)の2店舗を新規出店するとともに、既存店においては商圈特性やお客さまのライフスタイルの変化に対応する改装を実施し、マックスバリュ11店舗、食品ディスカウントストア業態のザ・ビッグ エクスプレス5店舗を改装オープンしました。これらの取り組みにより、売上高既存比は前年同期比101.0%と当初計画(100.0%)を上回って推移しました。また、ロスの改善等にも注力し、荒利益率は25.4%となり、前年同期比1.0ポイント改善しましたが、当初計画(25.6%)を0.2ポイント下回りました。一方、収益構造改革にも継続して取り組み、LED照明や節水装置の導入等による水道光熱費の削減、店舗維持費の見直し等の経費削減に計画的に取り組み、販売費及び一般管理費は当初計画内に収まり、営業収益・営業利益・経常利益・四半期純利益は当初予想を上回る見込みとなりました。

連結子会社については、永旺美思佰樂(江蘇)商業有限公司及びデリカ食品株式会社ともに概ね計画どおり推移しました。

以上の理由により、2016年2月期第2四半期(累計)の連結及び個別の業績予想を修正いたします。

3. 特別損失の計上及びその内容

減損損失487百万円

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社グループの保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、当第2四半期の店舗に係る減損損失は415百万円となり、第1四半期に計上した71百万円と合わせ、当第2四半期連結累計期間で487百万円を特別損失に計上する見込みであります。

4. 通期の業績予想

通期の業績予想につきましては、2015年4月9日に公表しました業績予想に変更はございません。第3四半期以降についても依然として景気の先行き不透明感、業種業態を越えた競争は一層激しさを増していくと予想されます。第3四半期及び売上高・利益構成比の大きい第4四半期においても既存店の収益性の改善を図るとともに、収益構造改革によるコスト削減に継続して取り組み、通期の業績を達成してまいります。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上